

「幸福」エピソード 優秀作品

～あなたが鉄道・バスで「幸福」を感じたのはいつですか～

一般の部

大賞

運転手さんの「ありがとう」

福井市在住 近藤 智栄実

この日は、憂うつだった。再検査のために県立病院に向かっていた。福井駅出発時には空席があったが、杖をついた80代ぐらいの男性が途中乗車してきた時は、空席がなかった。それで、その方に席をゆずった。すると、下車する時に、眼鏡をかけた私よりずっと若い運転手さんが、「席をゆずって下さってありがとうございます。」と声をかけてきた。席をゆずって運転手さんに御礼を言われたのは初めてのことだった。再検査に向かう私の足取りは軽かった。

優秀賞

幸せを運んだ列車

越前市在住 田中 智代子

「もうすぐ着くねママ！パパ嬉しいって泣いているかね！」三歳の娘の無邪気に話す言葉に周りのお客様の笑顔と目が合い私まで心が踊り微笑んだ。三十数年前主人の単身赴任時二人の子供達と敦賀から小浜線に乗り主人の待つ小浜へ。移りゆく風景を眺めながら幸せ気分を運んでくれた列車。行きはウキウキ顔。帰りは楽しかったと小気味良い音に揺られほつりと帰路に。あの暖かくて幸せだった時間を思い出しながら久しぶりに小浜線、乗りに行こうっ！

優秀賞

「ごもものハートをこらえる」運転手さん

坂井市在住 青木 聖太

3歳の息子はエンゼルランドで遊ぶよりも、エンゼルランドに停車するバスを眺めていることが好きでした。ある日、停車しているバスを見つめ、息子が喜んでいました。運転手さんが乗降口を開けてくれ、手招きしてくれました。たぶん運転手さんは休憩時間だったにもかかわらず、こころよくバスに乗せてくれ、さらに給ちゃんまでプレゼントしてくれました。息子は、満悦で自宅まで歩いて帰っていると、停車していたバスがちょうど自分たちの横を通り過ぎたのですが、運転手さんが素敵な笑顔で手を振ってくれていました。運転手さんのおかげで、すごく心温まる一日になりました！

大賞

へいしやのバス

武生第一中学校 伊藤 葵

僕の母はバス会社で働いている。町で会社のバスとすれ違いうと、母は「へいしやのバスだよ」と教えてくれる（自分の働いている会社をへいしや、ということも）。朝早くスポ少の大会に行くときも、帰りが遅くなった時も、バスとすれ違う。母は、いつでも得意げに「へいしやのバスだよ」と教えてくれる。僕は「へいしやのバス」に乗ってみたいと、おばあちゃんと一緒に乗ったことがある。運転手さんが「このバスは〇〇行ですがお間違いないですか？」と聞いてくれた。おばあちゃんは「いつも乗らないお客だから心配してくれたんだね」と笑っていた。

優秀賞

一生忘れない幸せな思い出

灯明寺中学校 中出 愛来

1年前の夏、三姉妹だけでえち鉄に乗って最寄駅から福井駅まで出かけた。アテンドさんが福井駅に着くまですごく気にかけてくれてその都度声をかけてくれた。別れ際には見えなくなるまで手を振ってくれた。運転手さんも降りるまで見守ってくれた。一番下の3歳の妹はとても嬉しそうではしゃいでいた。私も思わず笑顔になったのを覚えている。そんな妹は今、お空の上。同じ時間は戻らない。だからこそ幸せな思い出を抱えて生きていこうと思う。

優秀賞

ゆづきを出してだいぼうけん

明新小学校 長谷川 纏

子どもだけで、バスでおばあちゃん家まで行くことになりました。運転手さんにちゃんとおりられるか心配ですと言うと、大丈夫だよとやさしく言ってくれました。それでも心配だったので、運転手さんのすぐ後ろにすわりました。ブザーをおすのを弟にゆずってあげました。おりる時に、ありがとうございましたと言おうと、がんばったねと言ってくれました。むかえに来てくれたおばあちゃんを見たら少しだけなみだが出てしまいました。

児童・生徒の部